

ちばの地域福祉

《中核地域生活支援センター大会2013》に向けて

中核地域生活支援センター大会実行委員会
委員長 吉井 稔

地域の課題(問題)というものは生き物のようで、形を変え、範囲を変え、時には逃れようにも逃れられなく、悪循環に陥ってしまうこともあり、私たちの生活に大きな影響を及ぼすこともあります。例えば、「生活困窮」であったり、「仕事に就けない」、「多重債務」、「社会的孤立」、「不登校・ひきこもり」、「自殺」などもその一つなのだと思います。そういった地域ごと、相談者ごとに異なる課題に対して、中核センターはあの手この手で解決の糸口を考えながら支援してきました。

中核センターが組織されて早10年、中核地域生活支援センターは2010年からシンポジウムを開催し、地域の課題をテーマに、地域生活支援のあるべき方向性を模索してきました。今年度は、この催事を「シンポジウム」から「大会」へ発展させて、1日たっぷり時間を取り、地域課題に向き合うこととしました。

今年度のテーマ(課題)は、

「地域社会の貧困化～生活困窮に対する支援の課題とこれから～」

と銘打ち、生活のしづらさを抱えながら生活している人たちへの支援について考えていきます。

午前に基調講演を行い、厚生労働省社会・援護局長の村木厚子さんに地域社会全体が貧困傾向にある中で、生活困窮や社会的孤立を生み出す要因とは何かについてお話いただきます。

そして、午後からは同テーマでシンポジウムを開催し、①ユニバーサル就労実践者として生活クラブ風の村の池田徹さん、②地域共生ケアの実践者として井戸端介護の伊藤英樹さん、③緊急雇用対策と生活支援の実践者として佐倉市社会福祉協議会の鯉淵百合子さんをお迎えし、私たちは「今、何を課題として捉え、どう活動すべきか」について議論を深めていきます。

国で進められている生活支援戦略の具体的な取り組みと地域での具体的な生活支援実践の事例を知ることができる絶好の機会となります。関係機関の皆様はもとより、行政や地域住民の方々など、たくさんの方々にご参加いただけることを心よりお待ち申し上げております。

わたしのまちの地域福祉

高齢者が家族や仲間や地域と手を携えて、安心して暮らせるまちを目指して

山武市地域包括支援センター

介護保険制度の開始から13年が経過し、高齢者の生活機能の維持向上のための「介護予防」や、高齢者が住み慣れた地域で、その人らしく、安心して日々の暮らしを営むことができる支援体制の整備といった、制度の「持続可能性」を高めることが求められています。山武市における高齢化率は、平成25年5月に27.3%に達し、人口は緩やかな減少傾向にある中、高齢化率は確実な進展が予想されます。ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、認知症高齢者の増加も否めません。

『家族や地域と対話し、つながりを大事にしている』『自分の楽しみや何かに関心を持っている』『自分の仕事・役割を持っている』『健康で元気でいようとがんばる』姿が山武市の目指す活動的な高齢者の姿です。

その実現に向け、施策・事業を進める中、介護予防の普及・定着が徐々に広がってきています。介護予防サポーター養成講座や介護予防ボランティア研修を受講された元気高齢者が、地域の介護予防活動の担い手として活躍・一次予防、二次予防事業のプログラム修了後に自主サークルが次々に発足～「いろいろなことに関心を持って参加しています。協力できることはもっとやっていきたい。」「参加して仲間もできました。元気でいたいから、これからも一緒に続けたい。」～自ら意欲的に取り組まれています。

今後も引き続き、①介護予防の普及・定着のための啓発活動や担い手の育成を進めながら、②高齢者問題の認識を、家族やこれから高齢者になる世代、若年層にも深めていただき支え合う、また、高齢者の力を活かす地域づくりに向け、認知症サポーター養成講座や介護予防ボランティアの育成等に努めたいと思います。そして、③介護や支援が必要な状態になっても、地域で安心して暮らしていける仕組みづくりに向け、関係職種や関係機関の方々と連携体制を深めていきたいと思います。



ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

NPO法人ダイバーシティ工房 理事長 不破牧子さん（市川市）

■「学ぶことで自由自在になれる」を理念に

『自在塾』は、「学ぶことで自由自在になれる」という理念のもと、37年前に私の父の手によって、街の小さな個人塾としてスタートしました。

学力に大きな悩みを抱える子どもたちは、自己肯定感や成功体験が圧倒的に不足していて、それが学習への意欲減退の大きな要因となっています。『自在塾』では、教室を家のリビングほどの広さにし、授業前におにぎりを出したり、スタッフ全員で学校の行事に参加したりするなどしています。

子ども達の中には、家庭では1人でご飯を食べている子や、学校の行事に誰も来てくれない子がいて、その子達にとっては勉強よりも、まずは身近に自分のことを見守ってくれる大人が必要であると考えているためです。また、勉強以外の成功体験やチームワークづくりを目的としたバーベキュー等の体験型プログラムを実施しています。子どもたちが仲間と一緒に企画を考え、実行し、それを完成させるまでの取り組みを経験することにより、子どもたちは達成感や自信を積み上げていきます。授業ではすぐに成果を出せない生徒も、アウトドアの授業では、積極的に行動し、周りの仲間を引っ張り、立派に企画を完成させるという場面が数多くあります。

■全ての子どもたちが能力を発揮できる学びの場を提供したい

現在、日本の子どもの6人に1人が相対的貧困状態にあるといわれています。また、家庭内暴力や家族の機能不全等といった様々な事情によって、学習環境や学校生活に困難を抱えている子どもたちが数多くいます。将来の大きな可能性を秘めた子どもたちが環境に左右され、本来の力を発揮できないまま、不登校や中退により低学歴になってしまう。その結果、正規雇用には就けず低所得に陥る「貧困の連鎖」へとつながっていくのは、私たち周りの大人の責任でもあります。

2012年3月に設立した当法人は、「経済状況などの家庭環境に関係なく、全ての子どもたちが安心して学べる環境を地域に作り出す」ことを目指しています。『自在塾』の運営を引き継ぐとともに、児童福祉法の放課後デイサービス事業の指定を受け、塾をやるなかで長年課題だった発達障害児に特化した教室『スタジオ plus+』を開設しました。

私は学生時代、途上国の貧困の問題を学んできましたが、実は、日本の教育が抱える問題も同じだと考えるようになりました。二つの教室には、臨床心理士、作業療法士、元教員や教員志望の学生、社会課題にアクションを起こしたいと思っている人、本当にたくさんの方が運営に協力してくれています。また、子どもたちの環境づくりには、学校や地域との関係機関との連携協力が欠かせません。困難を抱えた子どもたちでも当たり前を選択肢がある社会をつくるのが最終目標です。

■所在地：市川市市川4-10-18
自在塾 TEL047-711-8797
<http://www.jizaiyuku.com/>
スタジオ plus+ TEL047-711-8796
<http://www.st-plus.org/>





ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

「ひと・くらしサポートネットちば」設立記念セミナー

生活課題に寄り添い続ける（伴走型）相談支援とは

- 【プログラム】** ◆開会&オープニングトーク「“思い”と“実践”を紡いだ先に…」
◆基調講演「被災地の現状、よりそいホットラインに寄せられた声から見える、日本に求められる社会保障制度の姿」
講師：一般社団法人社会的包摂サポートセンター 代表理事 熊坂義裕
◆実践報告「ひとりの生活課題を共に支える実践」
◆スペシャルトーク「生活課題に寄り添い続ける、人づくりと縁づくり」
◆ナイトセッション「ナイトクラブ TUMUGI 開演」
- 【日 時】** 平成 25 年 6 月 8 日（土）13：30～17：30（受付 12：30）
※ナイトセッション 18：30～21：00
- 【会 場】** 千葉パルコ隣・千葉中央ツインビル 2 号館 14 階 **【定員】** 150 名
- 【参加費】** 参加費第 1 部 1,000 円 第 2 部（ナイトセッション）4,000 円
- 【申込締切】** 平成 25 年 6 月 5 日（水）
- 【申込問合せ】** 一般社団法人ひと・くらしサポートネットちば（担当：太齋）
Tel：043-304-5789 Fax：043-304-5422

みんなで作ろう

障害者差別をなくす法律・条例を考えるフォーラム2013

- 【内 容】** いま、国会で障害者差別解消法案が議論されています。すでに障害者差別をなくす条例をもっている自治体、これから条例をつくろうとしている自治体もたくさんあります。この法律について知り、法律ができると自治体の条例はどうなるのか、みんなで考えるフォーラムを開催します。
- 【プログラム】** ◆基調報告「障害者差別解消法案とは」：山崎史郎氏（内閣府政策統括官）
◆シンポジウム：「これまで～障害者差別をなくす条例の成果と課題」
「これから～障害者差別解消法と条例の役割」
シンポジスト：条例を整備した自治体の担当者他
司会：野沢和弘氏（毎日新聞論説委員） コメンテーター：山崎史郎氏
- 【日 時】** 平成 25 年 6 月 16 日（日） 13：00～16：00
- 【会 場】** 和洋女子大学 西館 1-4 教室（千葉県市川市国府台 2-3-1）
- 【定 員】** 最大 400 名 **【申 込】** 不要 **【駐 車 場】** なし
- 【問 合 せ】** 千葉県手をつなぐ育成会
千葉市中央区千葉港 4-3 千葉県社会福祉センタービル
Fax：043-242-6494 E-mail：jimukyoku-chiba@hotmail.co.jp

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：さんぷエリアネット（山武圏域）山武市成東 189-3 TEL:0475-53-5208 FAX:0475-80-2808

編集：いちほら福祉ネット（市原圏域）市原市東国分寺台 3-10-15 TEL:0436-23-5300 FAX:0436-23-5225

※内容についてのお問い合わせは、いちほら福祉ネット（担当：高地）までお願いします。